



人気の「世界遺産バス」と連携、 産業観光バスが運行を開始。

2014年10月から本格運行が始まった「世界遺産バス」運行：加越能バス（本社：高岡市）。その運行ルートに、本年4月に新しい停車スポット「能作前」（高岡オフィスパーク）が誕生した。工場見学や鋳物体験で多くの人を訪れる「能作」をハブにして、近隣の「富山県総合デザインセンター」や「若鶴酒造三郎丸醸造所」を巡回する無料バスがスタートした。富山県が力を入れる「産業観光」の一つとして、ものづくりの街・高岡の魅力発信につなげていく考えだ。

人気の「世界遺産バス」、デザインは富山大学生

運行開始から約4年、「世界遺産バス（加越能バス）」は人気の観光スポットを周遊する「足」としてすっかり定着してきた。他社の観光路線バスが白山郷だけを対象としているのに対し、加越能バスは相倉、菅沼（いずれも世界遺産）の五箇山地区をも訪問できるのが大きな特長で、一般的な観光に飽き足らない「通」の間で支持を集めている。

このバスの外観をデザインしたのは、富山大学芸術文化学部の学生・山本美智さん（2015年3月卒業）。高岡銅器の色と山里の緑色のグラデーションを採用した地色に、養蚕の「糸かご」と蚕の繭をモチーフとした柔らかなラインが描かれている。

現在、世界遺産バスは高岡⇄白川郷間を毎日運行（→詳細は

webサイトを参照）。国内のみならず海外からの観光客にとっても人気の便となっている。

「能作」を拠点に産業観光便（無料）も運行開始

高岡の鋳物メーカー（株）能作が、高岡オフィスパークにショップ・レストラン・工場を併設した新社屋を新設したのは2017年4月。オープン初年度は10万人を越える来訪者で賑わう人気の産業観光スポットとして注目を集めている（2年目は月1万人、年間12万人を目標）。

2018年4月、能作および加越能バスと協力し「世界遺産バス」の新バス停「能作前」を新設。その後、8月から、能作を拠点に「富山県総合デザインセンター」および「若鶴酒造（株）三郎丸蒸留酒」を周遊する無料バスの運行も始まった。（富山県・高岡市の連携事業）富山県が進める産業観光の一貫として、ものづくりの街・高岡の魅力発信に貢献している。



バス運行についての詳細はこちらをご覧ください ▶ <http://www.nousaku.co.jp/main/wp-content/uploads/2018/08/bus.jpg>